令和４年度全国学力・学習状況調査の結果公表について

奥尻町教育委員会では、学校の設置管理者としての説明責任を果たし、今後の施策の改善につなげていくことが大切であることから、上記標題の調査（令和４年４月１９日実施）について、その結果を公表することとしました。

新しい学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」をよりいっそう育むことを目指しています。

生　き　る　力

豊かな人間性（徳）　**確かな学力（知）**　健康・体力（体）

＊「生きる力」を、「知・徳・体」のバランスのとれた力としてとらえ、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の「知・徳・体」をバランスよく育てることが大切です。
＊教育委員会や学校では、今日求められている学力を、知識・技能はもとより、思考力や判断力、表現力、学ぶ意欲などを含めた学力ととらえています。
＊今回の調査結果は、こうした学力の特定の一部分の結果であることに留意してください。

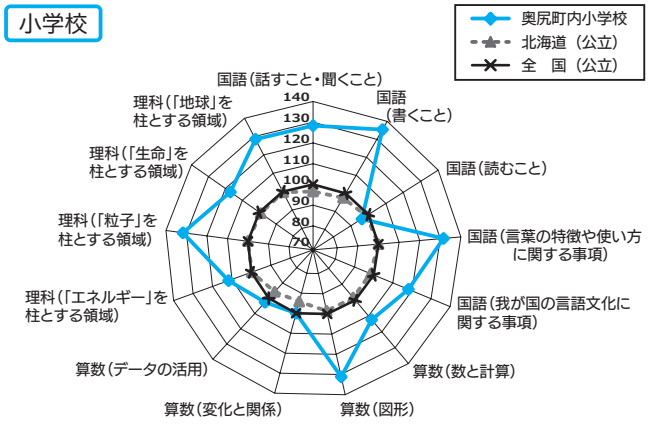
奥尻町内小中学校の状況及び学力向上策（学校数：小学校２校、児童数13名、中学校１校、生徒数６名）

【教科全体の状況】

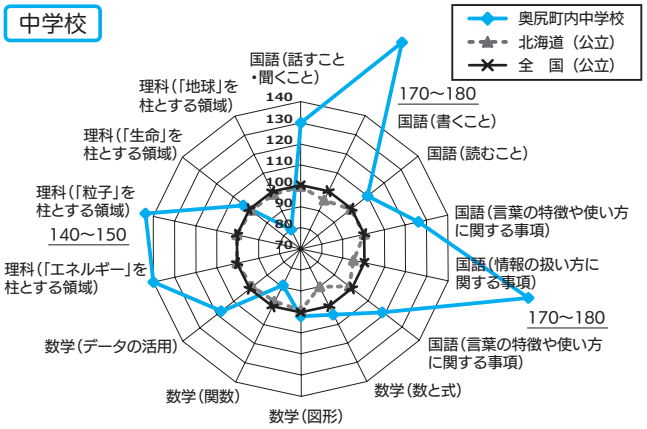
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び奥尻町の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	79	86
算数・数学	73	54
理科	77	56

小学校

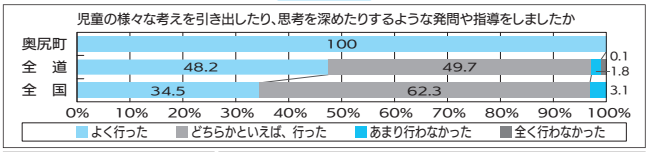


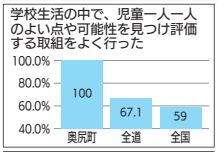
中学校

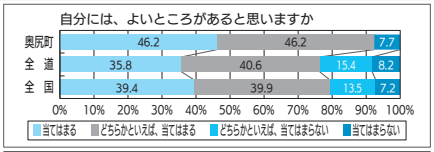


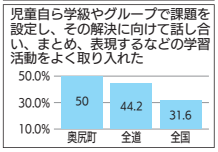
【教科全体の状況】

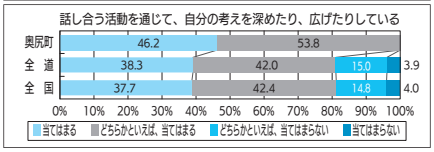
小学校



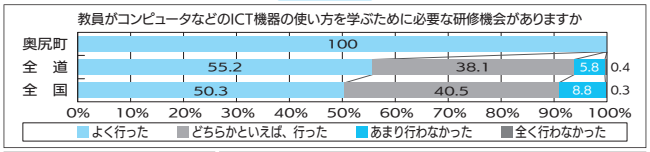


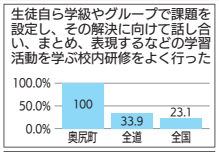


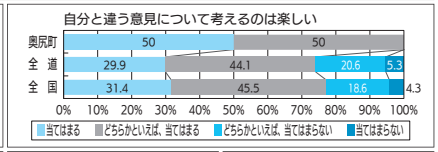


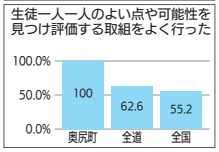


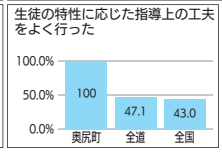
中学校

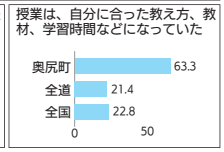












【上記結果の考えられる要因の分析】

小学生

町内の全ての小学校において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行ったことにより、全ての領域・事項で平均正答率が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての小学校において「あたたかい人をつくるまちづくり」を推進するとともに、教師が児童一人一人のよい点や可能性を認める取組の充実を図ったことにより、自分にはよいところがあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の小学校において、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を充実させたことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学生

中学校において、ICT機器を効果的に活用する研修機会を確保し、ICT機器を効果的に活用する授業改善を進めたことにより、９領域３事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、課題の解決に向けて対話的に学ぶ学習活動を充実するための校内研修を行い、生徒が対話的な学びを継続したことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、生徒一人一人のよい点や可能性を評価するとともに、生徒の特性に応じた指導を工夫したことにより、授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【奥尻町の学力向上策】

◎家庭と連携した学習・生活習慣の一層の確立と主体的な学習態度の育成
◎小中連携によるＩＣＴ機器の効果的な活用に向けた取組の推進
◎９年間で育てる児童生徒の姿を共有し、地域全体で学びの支援をする取組の推進